

市民活動促進委員会 第7回会議要録

2005.1.15(日)

コミュニティセンターやす

開会(9時30分)

あいさつ

(会長)年明けからご苦労さまです。委員会も大詰め議論となってきました。本日の内容について事務局からの説明をお願いします。

概要

(事務局)本日の議題は、班長会議で確認いただきましたとおり、市民活動サポートセンターの位置づけと市民活動促進計画の骨子の2点です。まず、これまでの委員会の議論から、最終の提言書となる市民活動促進計画について素案という形で整理したものです。

計画書の構成としては、「はじめに」からスタートし、「取り組みの経過」として、旧野洲町からの経過と本委員会の議論経過を記し、「野洲市の市民活動」として、本市の市民活動とは何かを整理し、「市民活動の現状と課題」では、本市の市民活動団体の現状と課題についてアンケート調査結果とヒアリング結果から整理し、「目的と促進方策」では、旧野洲町の市民活動の促進方策をベースとしつつ、市としての目的と促進方策を3段階で示し、「課題解決に向けたアクションプログラム」では、委員のみなさんからの提言いただいた具体の促進事業を整理しています。更に、「地域通貨すまいるの取り組みから」では、それぞれの課題解決の一つの注目すべき事例として特記し、「市民活動サポートセンターの実践に向けて」では、同センターの位置づけをするよう構成案としています。

本日の議題の一つは、「市民活動サポートセンターについて」ですが、計画書の最終章に位置づけする内容で、提言いただいた内容も整理していますので、参考にさせていただき、各班で議論いただきたいと思います。

また、あわせて「市民活動促進計画骨子について」では、同素案をベースに、ご意見により内容の肉付けや、構成などについて議論をいただきたいと思います。

配布資料としては、事前送付した「市民活動促進計画骨子」と、本日お手元に配布している地域福祉計画策定のための「市民の福祉ニーズと福祉意識」に関するアンケート調査結果です。この中でもボランティア活動に関する設問があり、「活動経験、参加理由、参加していない理由、活動発展に必要なこと、やってみたい活動」の項目で整理されており、特に、参加していない人も、その多くがやってみたい活動の項目をあげられていました。

それでは、以上の点について、それぞれの班で協議をお願いします。

～調査研究班による協議～

(会長) 時間となりましたので、各班の議論を一旦終了し、順次ご報告ください。

(A班) センターの機能は、骨子P24 のとおりであるが、最終的には、野洲に住んでよかったというまちづくりを主体的に取り組んでいこうとする市民を育てていくというセンターのビジョンが必要であるということ。また、ボランティアコーディネーターを育てることも大切で、ボランティアを育成し、ボランティアが困っているときに救っていきけるようなコーディネーターが必要である。また、財源等の問題もあるが、場所についても議論した。民間の施設ということもあったが、公の施設において、まずは立ち上げが必要ではないか、ということであった。図書館は、団塊の世代といわれる方が気軽に集まってくる場所であるということからよいのではないか、という意見、また2点目にはコミセンやすという施設、これは市役所に近いことから運営面で行政のフォローアップができるのではないか、という意見、また、地域総合センターの図書館分室も考えてはどうかという意見があった。特に運営面については、当然、センターに行けばいつも職員がいるということから、まず、立ち上げの際には、市の職員を配置し、行政が関わってもらおうということが必要。当然センターは、市民の主体であることから市民の公募でもよいのではないか、という意見であった。

(B班) センターについて、現状では、図書館のほほえみ情報交流センターが使われていないのもったいないということ。図書館は人が一番集まりやすい場所であるということや、もっと広報の必要性があるということ。さらに、前回の旧野洲町での運営面での問題の一つとして直通の電話がなかったということもあった。ボランティアセンターという相談窓口もあるので将来的には一元化が望ましいが、まずはスタートして連携を図っていくべきという意見があった。市民活動を促進するということは、人と人をつなげていくということであって、一番に考えるべき基本である。センターでは、市民の方から何を相談されても受け入れられるようなセンターであるべき、そこでは、仮に介護の相談であったり、命にかかわる相談であっても聞いていけるようなものであるべきで、携わる職員としては、行政にもチャンネルをつなぎ、市民活動団体にもつなげるということが重要になってくるのではないか。

また、コミセンにもそうした相談窓口が必要ではないか、という意見があった。相談を受けて、出向いて話し合うことで、人と人とのつながりが動き出していくのではないか。退職後の人をどう引き込むかという課題でも機会づくりが必要であること。市民活動の年齢層の違いもあるが、団体の年齢構成についてもデータブックやホームページで情報提供していくこと。

どこの場所がよいか、という議論については、コミセンやすでもよいのではという意見もあったが、この委員会の16人の委員さんでは、どこでも気軽に来ていただけ

るが、活動をしていない方のきっかけづくりという点からみると、気軽に来られる図書館という位置づけがよいのではないか。センターのターゲットを絞るか、という意見もあったが、例えばスポーツ団体であっても、交流や気づきから、新しい展開が生まれるということで、広く市民の情報交流の場であるべきという整理がされた。

(C班) まず、市民活動促進計画の意味から議論した。旧野洲町で促進の方策までを議論されたが、その結果どうだったか、という意見があったが、データを集約し何よりもそうした取り組みから、行政に対して市民のアピールができたという効果があった。

センターの位置付けについて、どういうものが求められるか、という議論において、センター自らが担い手としてニーズを把握していくことが必要で、経営者としての視点が求められること。単に市民活動団体をつなぐ、振り分けるということだけでなく、センターが主体的にかかわっていくという役割が必要である。団体のコーディネートや人と人をつなげていくことも大変な仕事となるが、行政との連携についても、相談があって振り分けするというだけでなく、センターとしての政策形成能力が必要であるということ。更にコミセンとの連携が必要となっていくということであった。

(D班) センターのあり方について話し合いされた。それぞれのコミセンが独立して運営されているが、他のセンターの様子がわからないことも多くある。そうした連携の役割も必要であるということ。場所は、図書館をイメージしたものであるが、市の中でも社会福祉協議会や教育委員会での情報など、集約して発信できるように、情報サロンという位置づけが必要。文化的な提言についてもセンターが核となっていければよいのではないか。継続的に情報発信していくことが必要。それには、市の組織が入って、職員がいて、サポートしていくような形よい。実際にハードは整っているので、とりあえずスタートすべきである。

(委員) まずはスタートすることが必要である。例えば市民活動促進課が、センターに入ってもよいのではないか。数年間は、そこで窓口としてもらえれば、そこで何かが始められるのではないか。

(事務局) 全体の意見を通じて、場所としては図書館で、既に整備されているところを有効活用すべきであるという意見であった。きっかけづくりを考えると、活動されていない人を考えた場合に図書館がよいという意見にまとめられるのではないか。また、運営面については、県下でも民設民営というセンターもあるが、立ち上げから数年間については、行政でスタートし、市民参画するなかで市民主体の運営するというスタイルがよいのではないかという意見であったと思います。全体を通じてのご意見があれば、お願いします。

無ければ、その他ということで、事務局からですが、三月には、報告会を開催させ

ていただきます。具体的に委員会の議論を報告するということや、委員のみなさんの活動の事例発表ということで、日程については、班長会議で調整させていただきたい。

また、次回の委員会日程は、2月4日(土)で調整をさせていただきます。その他に委員のみなさんからありましたらお願いします。

(委員) 協働やまちづくり条例というテーマもあったと思うが、その議論も必要ではなかったのかと感じている。

(会長) スケジュールとしても条例の検討ということがあったが、まずは市民活動の促進を議論していこうということであった。

(委員) 特にまちづくり条例といっても様々なものもあり、我々の今までの議論は、市民活動をどう促進していくか、という現場の声であったと思う。そうした声を整理していくことでよいのではないか、それが協働につながり、条例ということにもつながっていくのではないか。

(事務局) その他になれば、閉じていきたいと思います。

(会長) 班別の議論が中心でありましたので、2月には交流の場を考えたいと思いますので、よろしくをお願いします。本日は、ありがとうございました。これで閉会します。

閉会(12時05分)